

# かんしょ「ふくむらさき」の安定栽培法

農業総合センター農業研究所

## 【研究の概要】

「ふくむらさき」は、機能性成分を含む紫いもの良食味品種として期待されています。一方、従来の栽培法では、収量が低く、一個の重さが軽い事が課題でした。そこで、収量をも高める「ふくむらさき」の安定多収栽培方法を開発しました。



ふくむらさきの姿

## 【研究内容】

本県の主要なかんしょ産地である行方地域において、

- ① 挿苗および収穫時期
- ② 適切な株間
- ③ 施肥量

を組み合わせる栽培試験をすることで、「ふくむらさき」を安定して栽培する方法を明らかにしました。



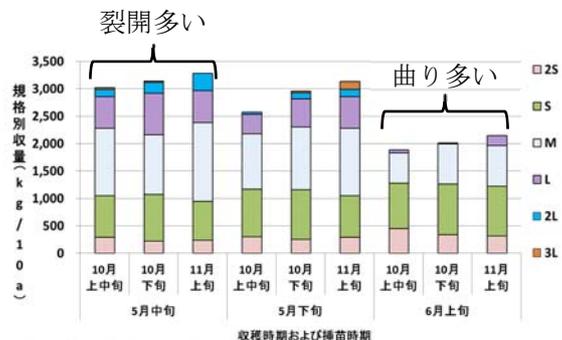
収量の改善効果

## 【研究成果】

栽培のポイントは以下の3点です。

- ① 挿苗時期を5月下旬とし、収穫時期を10月下旬以降とする
- ② 株間をやや広めの50cmとする
- ③ 施肥量を「ベニアズマ」慣行の1.5倍とする

この栽培方法により、商品性の高いM~L品規格のものの割合を高めることができ、収量も向上します。



注) 施肥量 (kg/10a) N : P<sub>2</sub>O<sub>5</sub> : K<sub>2</sub>O=3.2 : 12.8 : 6.4、黒マルチ栽培、株間50cm、畦幅94cm 試験地：行方市  
注) 5月中旬、下旬：H28~30平均、6月上旬：H28~29平均

挿苗及び収穫期が収量・規格に及ぼす影響

## 【将来の展望】

今回明らかにした栽培法により安定して生産できるようになり、より迅速な品種の普及が見込まれます。

また、機能性成分を含む、美味しい「ふくむらさき」がより早く消費者の手に届く事が期待されます。



ふくむらさきの焼き芋